

- ・カテーテル後の腎障害としてはコレステロール塞栓と造影剤起因性腎障害に分けられる。
- ・コレステロール塞栓症はカテーテル後3 - 8週間かけて腎機能が障害される点に注意。腎障害以外の症状としては、下肢の網状皮斑、疼痛、冷汗などの塞栓症状があげられる。ステロイド治療が行われる場合があるが、エビデンスはない。

- ・造影剤起因性腎障害

定義：検査後48時間以内に血中Cr0.5g/dl以上の増加を示すもの、またはCr値が25%以上上昇するもの

頻度：4 - 20%

危険因子：造影剤使用量 200ml、血中Cr > 1.2mg/dl、末梢動脈病変をみとめるもの

予防：

- ・透析は予防効果がない。

理由) 造影剤が腎臓を初回に通過するときに障害されるため

透析自体が腎障害作用があり、造影剤を除去するmeritが相殺されてしまう。

- ・生食もしくは半生食をカテーテルの12時間前から12時間後まで負荷する。

もっともconsensusが得られた方法である

- ・Nアセチルシステイン600mg x 2回 カテ前日から翌日まで内服

- ・カテーテル検査と検査の間を48時間以上(腎機能障害がある例では72時間以上)あける。

感想：いままで、エビデンスがないことを知ってはいたが腎機能障害患者のカテーテル後にHDを施行してきた。今回、参加して他施設および海外では透析をおこなっているところは少ないことを知り、今後エビデンスに基づいた対処法を行う重要性を感じた。